



風水害への備えは大丈夫？

河川の出水期に備えましょう！

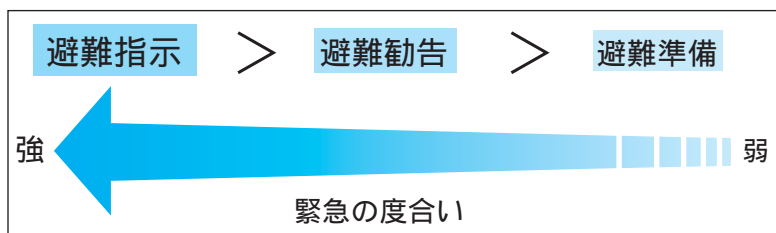
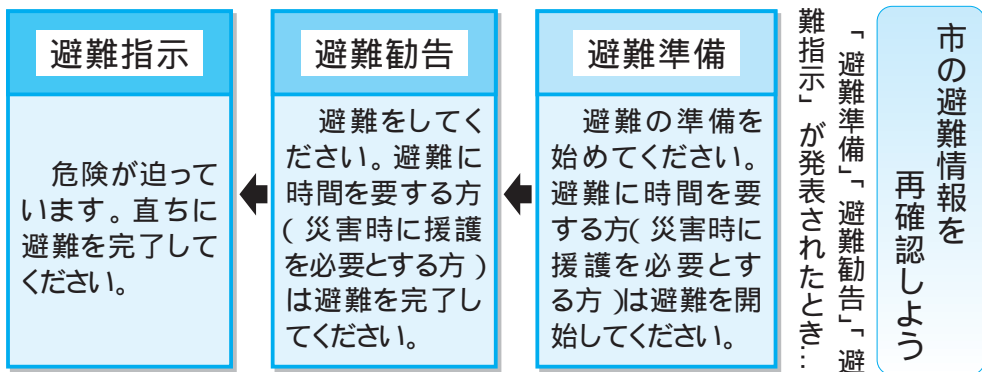
危険を感じたら自ら早めに避難しましょう！

平成16年の台風23号は、市内に甚大な被害をもたらした(愛宕山から撮影。立野大橋の上流、円山川右岸 写真の左側 堤防が決壊)

6月に入り、今年も出水期を迎えました。出水期とは、6月から10月にかけて、集中豪雨(梅雨)や台風により、河川が増水し洪水を起こしやすい時期のことをいいます。

最近、全国各地で風水害や土砂災害による被害が多発していますが、台風などは気象情報等により、事前にある程度予測することが可能です。このため、少しでも被害が軽減できるよう、市民の皆さんも日ごろから防災意識を持ち、家庭での防災に備えましょう。

《問合せ》防災安全課防災係 ☎23 - 1111



万一、被害の発生が予測される場合は、事前に「避難準備」情報を発表し、状況に応じて「避難勧告」「避難指示」を発表していきます。市民の皆さんの中には、「避難指示」より「避難勧告」の方が緊急性の度合いが強いと思われる方も多いと思います



が、「避難指示」の方が「避難勧告」よりも緊急性の度合いが強くなり、この機会に再確認してください。なお、「避難命令」という言葉は使いませんが「避難指示」が実質的に当たります。

防災情報の確認方法

市内の雨量情報や河川の水位情報、その他必要な情報を入手しましょう。

テレビ・ラジオ

台風等の進路予測、気象予報・警報などが入手できます。

防災行政無線放送

台風情報をはじめ、市内の雨量情報や河川の水位情報などが入手できます。

また、聴覚障害者の方へも、ファックスにより放送した内容をお知らせします。被害発生の際がある時は、防災行政無線の戸別受信機を高い所や2階へ移動するなどの対応をお願いします。

とよおか防災ネット

携帯電話で、左記のアドレスから「お知らせメール」の登録を行うと、市からの防災情報メールが届きます。とよおか防災ネット（携帯電話）アドレス

<http://bosai.net/toyooka/>

川の防災情報

国土交通省の河川情報等が入手できます。
ホームページアドレス

<http://www.river.go.jp/>
携帯電話アドレス
<http://river.go.jp/>

その他

防災関連の情報については、気象庁や市などのホームページでも入手できます。市民の皆さんも積極的に情報取得に努めてください。

非常持ち出し品の確認

3日分の飲料水・食糧等の備蓄に努めよう

市では、約7、000人に対する、1日分の現物備蓄と1日分の流通備蓄を行うように努めています。風水害時には、避難する方それぞれで食料等の非常持ち出し品を持参してもらうことを原則にしています。

実際、災害発生直後は、食料等の供給が十分にはできないことも予想されますので、市民の皆さんも、日ごろから各家庭で、3日分の飲料水・食料および生活必需品の備蓄に努めてください。

【主な非常持ち出し品リスト】

非常食（カンパンなど）
飲料水
毛布

懐中電灯

ラジオ・電池

防災行政無線戸別受信機

衣類・下着類・軍手・タオル等

貴重品・現金

薬・救急セット

ライター・マッチ

必要に応じてティッシュ・

哺乳びん・紙おむつ など



避難所の確認

風水害が発生したとき、自分が避難する避難所を知っていますか。市が指定する避難所は、市内に243箇所あります。

具体的には、市ホームページの「災害・防災情報・市の防災対策・避難所一覧」で最新の避難所を確認してください。また、避難経路も、実際に歩いて確認しておいてください。

排水ポンプを停止することがあります

ことがありません

円山川の立野の水位が7.16メートルを越え、さらに上昇する恐れがある時は、堤防を守るため排水ポンプを停止することになっています。

大規模な地震に備え

豊岡市震災総合防災訓練を実施しました

大正14年の北但大震災や平成16年の台風23号被害を教訓に、災害時の体制を検証するため、豊岡市震災総合防災訓練を5月31日、日高町西芝の円山川防災センターで実施し、市、自衛隊、警察、地元消防団など約700人が参加しました。



土砂に埋もれた車からの救出訓練

訓練は、日高地域を震源地とする震度6強の大地震が発生し、多数の建物が倒壊し火災も発生、死者、負傷者も出ているとの想定で行いました。会場内に、災害対策本部と地域対策本部、現地対策本部の3つの対策本部を設け、各

対策本部が連携を取りながら訓練を進めました。また、日高消防団や日高地域の自主防災組織などが、負傷者の救出や搬送、バケツリレーによる火災の初期消火を行い、地元の府中小学校の児童たちも、避難訓練に取り組みました。

中国の四川大地震の被害が連日伝えられるさなかとあり、参加者は真剣に訓練に取り組んでいました。

訓練終了後、中貝市長はほとんど筋書きのない、現実的な訓練だった。それぞれの団体がお互いの役割を認識し、いざというときの連携を強化しなければならぬ」と講評しました。



災害対策本部は本番さながらの緊迫感